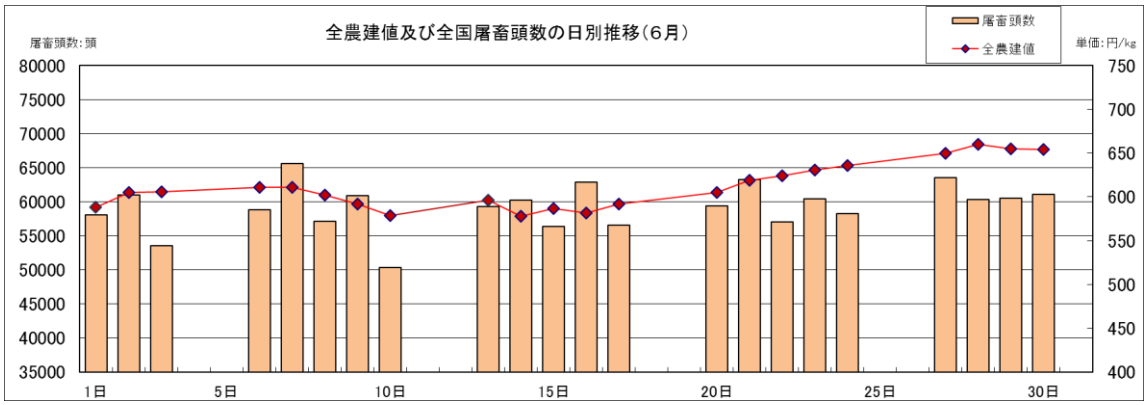
肉豚インフォメーション（6月）

【全農建値】

2022年6月（税抜）	2021年6月（税抜）
612円/kg（41円高）	571円/kg

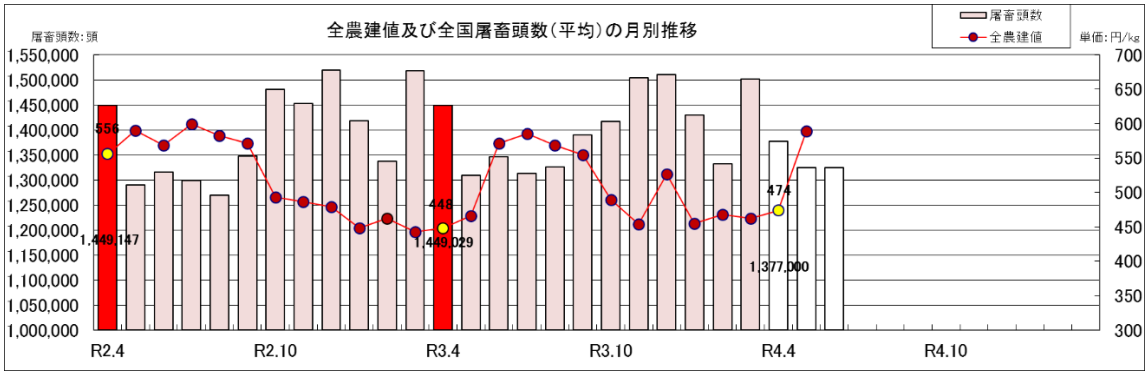
※過去30年で　2番目に高い相場
　1番高い相場は614円（2014年）

6月は、出荷頭数が6万頭を割り込む日が増え始め減少する中、輸入豚肉の価格が高騰していることから、一部販売店では国産豚肉にシフトする動きなども見られ、国産豚肉の需要が高まっている。下旬には650円を超えるなど非常に高い相場で推移した。



7月以降の動向

7月の出荷頭数は、前年同月並みと予測されている。

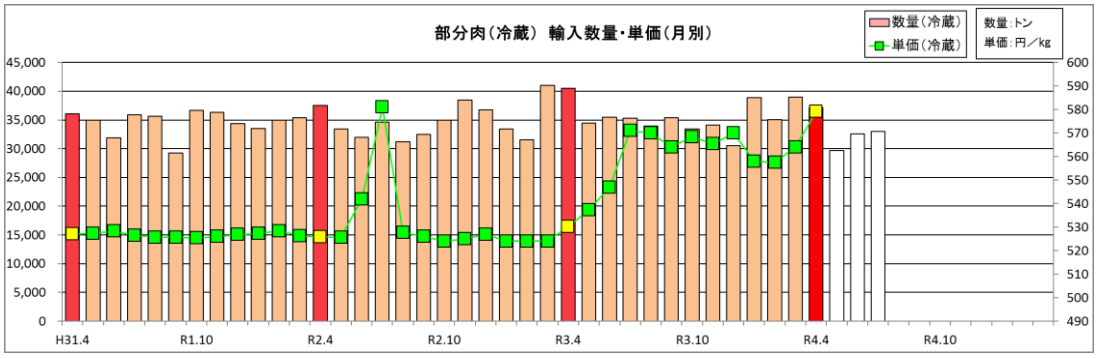


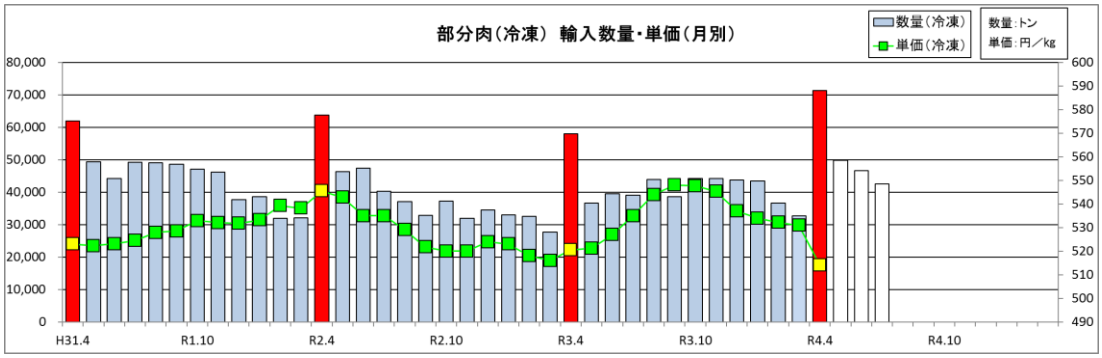
冷蔵品輸入量は、北米の国内需要の増加や為替相場の変動による現地価格の高騰等から、6月、7月ともに前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、外食需要の回復が見込まれていることに加え、前年同月の輸入量が、外食需要の減少やアジア諸国の旺盛な買い付け等に伴う現地価格の高騰により少なかったこと等から、6月は大幅に、7月はかなりの程度、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期を大幅に上回ると予測する。

（ＡＬＩＣ　豚肉の需給予測について　6月28日）

ＪＡ全農いばらき　畜産部





令和４年７～９月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和４年４～６月期に対し、全国全畜種総平均トン当り１１，４００円値上げとなった。

輸入豚肉については、現地価格の高騰に加え対ドルで一時１ドル=137 円台と、24 年ぶりの円安水準となる中、国産豚肉へのシフトが続くことも予想され国産豚肉相場の押し上げ要因となりそう。

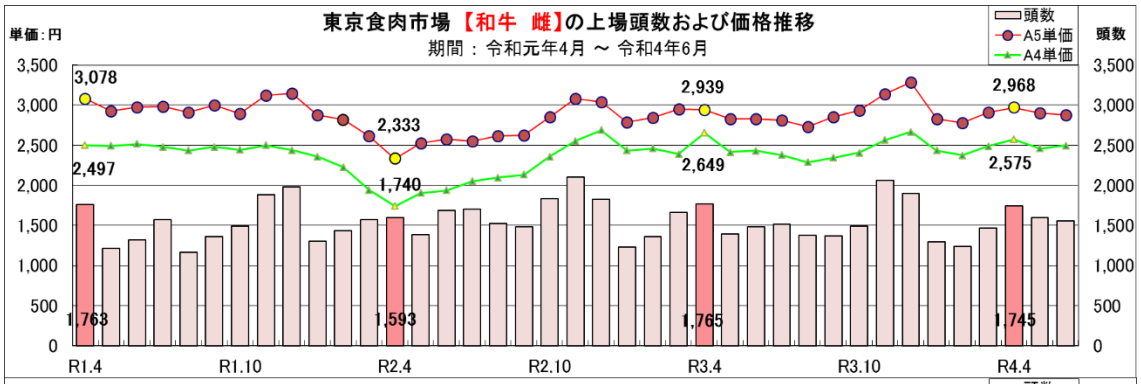
出荷頭数は前年並みと予想されているものの、連日の猛暑の影響もあり肉豚の発育遅れが懸念される。

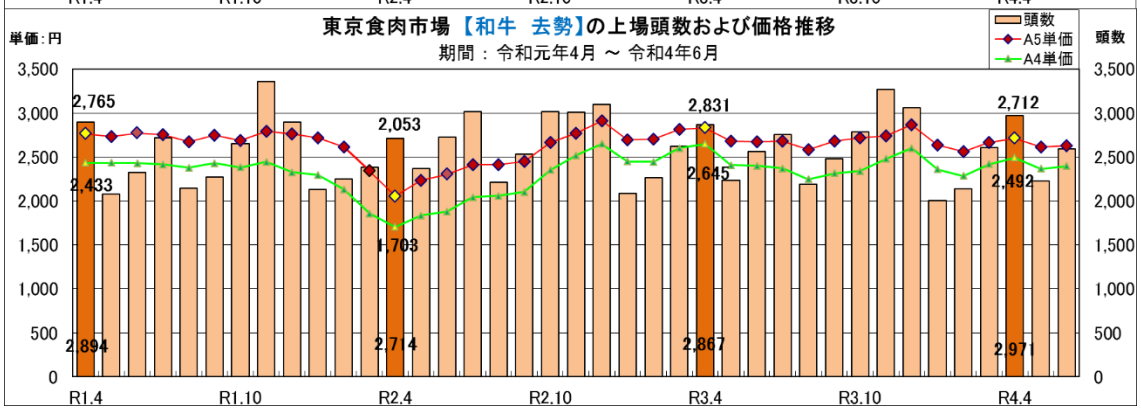
7 月の相場は高値圏で推移する見通し。
全農建値（税抜）予測レンジは 640 円～720 円とする。

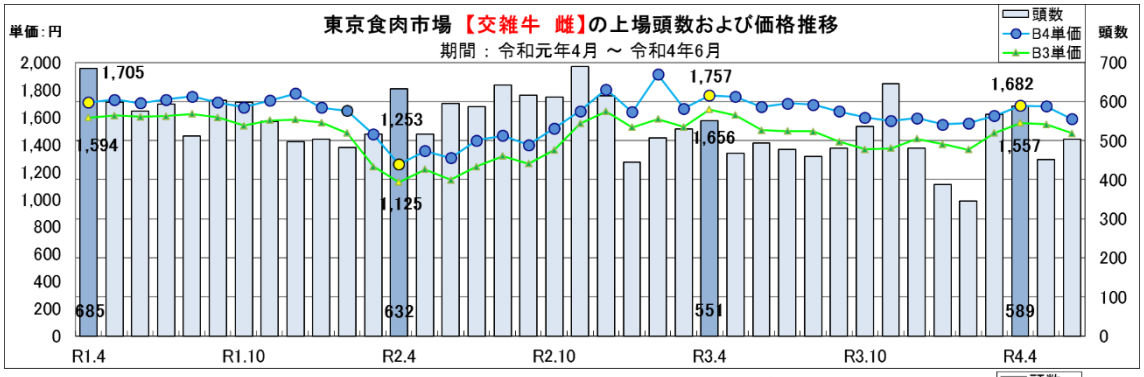
肉牛インフォメーション（６月）

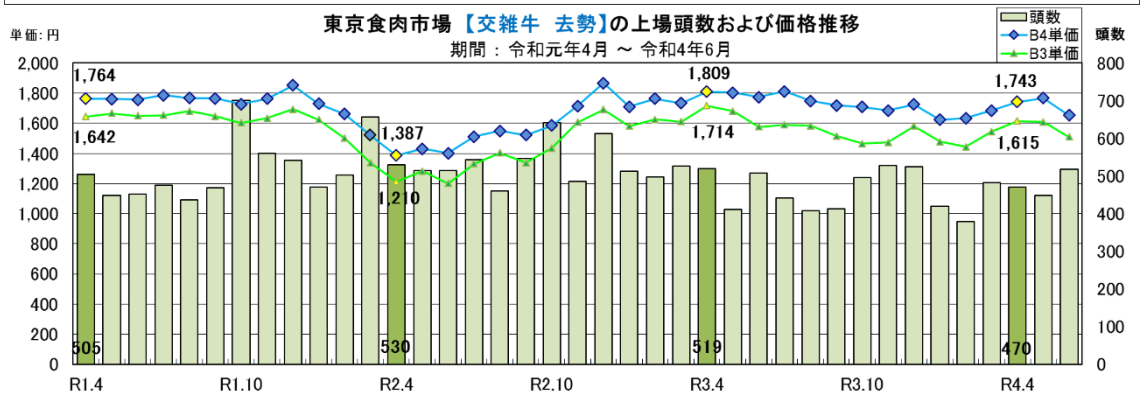
●６月の動向

和牛、交雑牛はいずれも弱もちあいで推移した。和牛は５等級の上物は伸び悩んだが３～４等級は５月相場を維持した。一方、交雑牛は５月に比べ５０～１００円ほど下げた。









●７月の動向予測

東京の上場予定頭数は 7,500 頭で昨年より 150 頭ほど少ない。旧盆商戦や夏季休暇に向けた手当てが始まる。また、新たに始まる全国旅行支援やインバウンドによる消費回復を期待したい。相場は中旬以降に動きが出てくると見込む。

７月相場は「弱もちあい」の展開と予想。

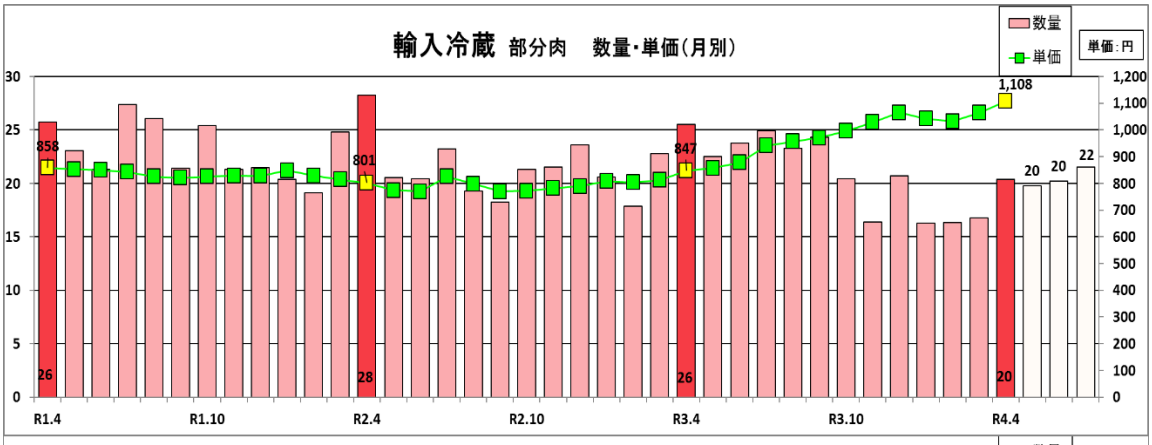
和牛去勢　A5 等級 2,650 円（税込み）　　A4 等級 2,450 円（税込み）

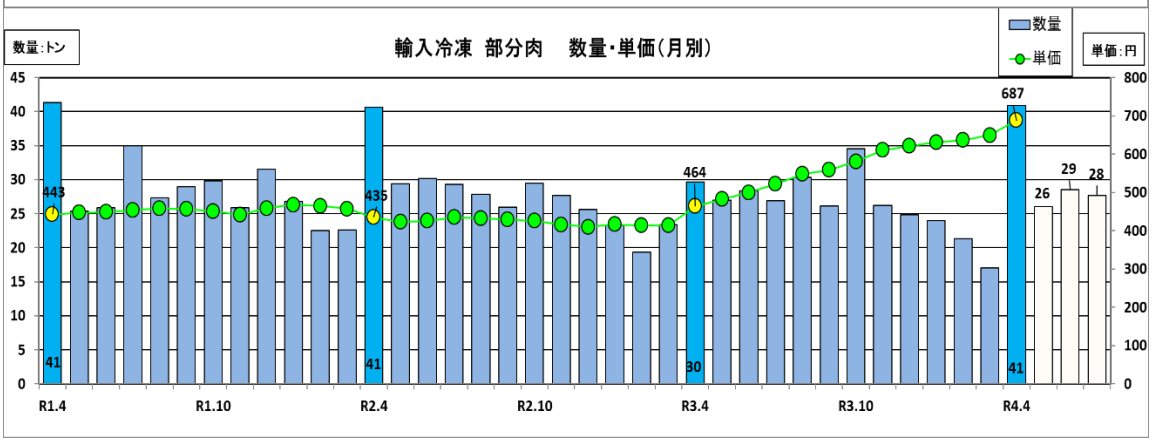
交雑去勢　B4 等級 1,650 円（税込み）　　B3 等級 1,550 円（税込み）

●輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、前年同月の米国からの輸入量が多かったことや為替相場の影響等から、６月、７月ともに前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお、３カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。冷凍品輸入量は、為替相場の影響はあるものの、前年同月の米国からの輸入量が少なかったこと等から、６月、７月ともに前年同月をわずかに上回ると予測する。なお、３カ月平均では、前年同期並みと予測する。

（ＡＬＩＣ牛肉の需給予測について６月２８日）





●消費動向

生活必需品の値上げなどにより個人消費は停滞するとの見方が強い。７月前半からは県民割が全国旅行支援に拡大となることで、消費回復への期待感が高まる。梅雨明けからはバーベキューや行楽需要などで切り落とし、バラの引き合いが期待できる。

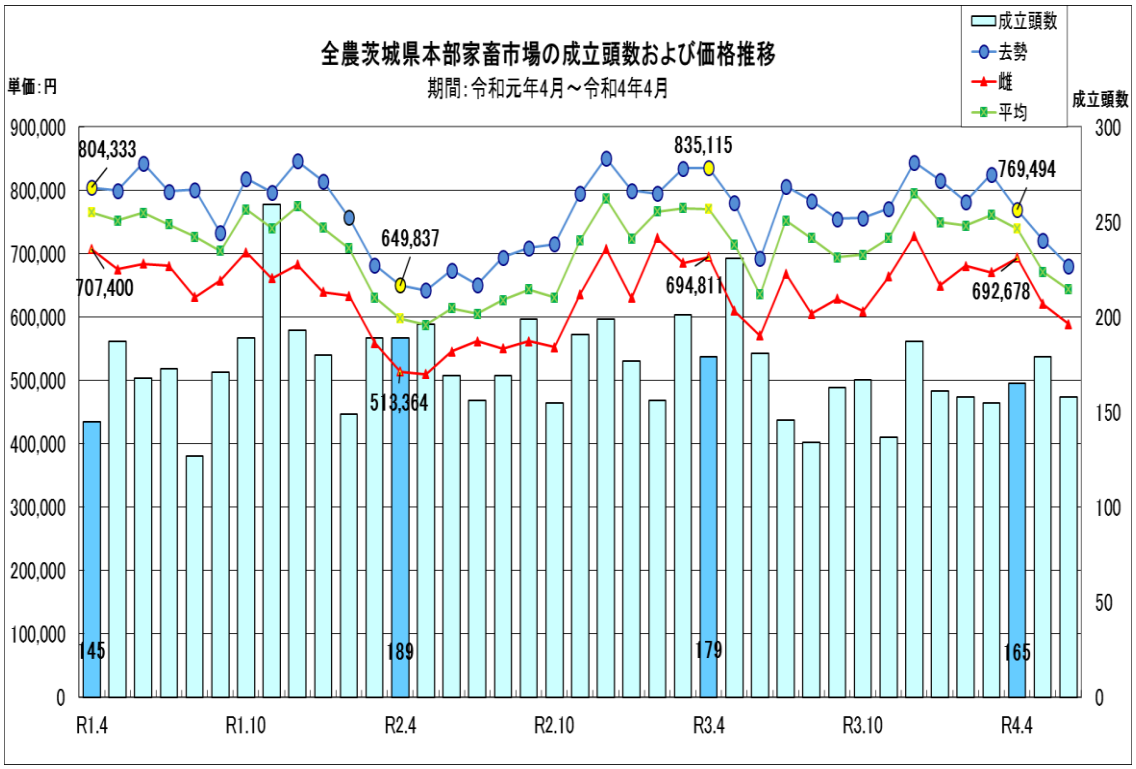
●全農茨城県本部家畜市場動向

素牛平均価格（６月税込）は、黒毛和種の雌は 589,102 円で前月比▲31,570 円、去勢は 680,689 円で前月比▲40,544 円となった。上場頭数（成立）は 158 頭で前月比▲21 頭。

次回上場頭数は 165 頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）　（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年度　平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度　平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
4年度　平均単価	684,686	739,233	671,234	643,591									
去勢	723,805	769,494	721,233	680,689									
雌	634,151	692,678	620,672	589,102									
2年度　成立頭数	178	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度　成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155
4年度　成立頭数	167	165	179	158									



食肉インフォメーション（6月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査5月度結果報告によると、行動制限のなかったGWで家族客を中心に客足が回復し、全体売上は前年比120.4%となった。一方で居酒屋など夜間中心の業態は客足が鈍く、業界全体の人手不足も重なって苦戦が続いている。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の5月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,160億円(前年同月比95.8%、既存店ベース94.3%）で、内食需要の落ち着きに加えてGW期間の人流変化により伸び悩んだ。牛肉の焼肉・ステーキ用が好調も輸入物の高騰で販促が打ちづらく、比較的価格が安定している国産豚や鶏肉へ需要がシフトしている様子が見られた。

6月は連休明けの反動や梅雨入り等で不需要期となるが、物価上昇が相次ぐ中で消費者の節約志向は例年以上に高まっており、父の日を過ぎると催事もなくなるため、末端需要が大きく低下することが懸念される。

○牛肉

5月は、GW中の飲食・ホテル関係の需要が伸びた一方、連休明けは物価上昇や巣ごもり需要の反動で国産・輸入ともに消費が大きく冷え込んだ。価格高騰と不安定な供給が続いた輸入牛の代替需要として交雑牛やホルスはスソ物を中心に堅調だったが、和牛は高級部位が特に厳しく、切落し用のウデ・モモも例年と比べて振るわなかった。

○豚肉

5月は、国産では輸入物の代替需要が続いた他、関東での豚熱発生による出荷頭数減少により需給が引き締まり、堅調な荷動きとなった。輸入はバラの引きが依然強いものの、円安相場による仕入価格高騰やコンテナ不足による供給不安により、全体的に動きは弱かった。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター　業態別取引先実績（令和4年5月期）　単位：千円、%

年度	ＪＡ	どきどき	給食	仲卸	食肉専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年5月	12,840	14,715	298	31,752	14,396	10,607	3,128	87,736
令和3年5月	11,129	14,559	8,638	25,567	9,779	12,770	5,008	87,450
令和4年5月	10,841	14,864	8,764	25,745	18,689	10,206	5,786	94,895
増減（R3-R4）	-288	305	126	178	8,910	-2,564	778	7,445
対比（R2-R4）	84%	101%	2,941%	81%	130%	96%	185%	108%
対比（R3-R4）	97%	102%	101%	101%	191%	80%	116%	109%